

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	93人	社会	93人	数学	93人
	理科	93人	英語	93人		

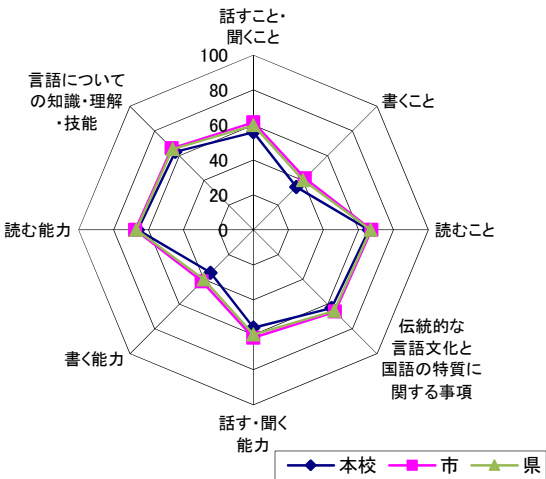
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	55.9	61.6	59.9
	書くこと	34.7	41.7	40.1
	読むこと	66.1	67.6	67.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	63.2	66.1	65.4
観点	話す・聞く能力	55.9	61.6	59.9
	書く能力	34.7	41.7	40.1
	読む能力	66.1	67.6	67.0
	言語についての知識・理解・技能	63.2	66.1	65.4



★指導の工夫と改善

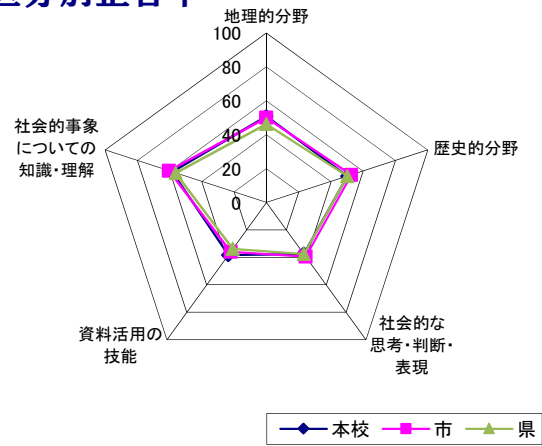
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめることができる。 ●「必要に応じて質問しながら話を聞き取る力」が不足しており、宇都宮市の正答率より10ポイント低い。	・授業の中で、メモを取りながら、話し合いの流れや発表者の意図を理解、把握させる。その上で、自分の考えを整理し、まとめる活動を数多く取り入れる。
書くこと	○カードを基に、考えの根拠を明確にして鑑賞文を書くことができる。 ●カードを整理し、文章の構成を考えて鑑賞文を書くことに課題が見られ、正答率は42%であった。	・重要な箇所に線を引きながら文章を要約し、書き手の言おうとしていることを捉える。自己の表現活動に生かしていけるような作業を継続的に授業に取り入れていく。
読むこと	○文章中の語句が指す内容を捉えることができる。 ○文章の内容を整理し、要旨を捉えることができ、宇都宮市の正答率より6ポイント高い。 ●描写を踏まえて登場人物の心情を捉える力が不足しており、宇都宮市の正答率より11ポイント低い。 ●文学作品の表現の特徴を捉える力が不足している。	・文章の読み取りにおいて、文章構成を捉え、どう展開しているのかを押さえつつ、内容を把握させる。 ・文学的文章を読む際、登場人物の心情を捉える上で、自己に置き換えて読み進めるよう指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み「振動する」「詳細」「贈り物」については平均正答率が高く、宇都宮市の正答率よりすべての読みが上回った。 ●歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことが苦手である。 ●「文節を正確に分ける力」が定着しておらず、正答率は 63%であった。	・語句の意味や用例についての学習を多く取り入れる。 ・学んだ漢字・語句を普段の生活で使う機会を増やしていけるような声かけをする。 ・文節に分ける・単語に分ける学習を、計画的に実施する。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	50.8	50.0	46.2
	歴史的分野	50.1	52.6	50.2
	社会的な思考・判断・表現	37.4	39.4	37.6
	資料活用 of 技能	38.2	35.9	33.8
	社会的事象についての知識・理解	58.5	60.4	56.3



★指導の工夫と改善

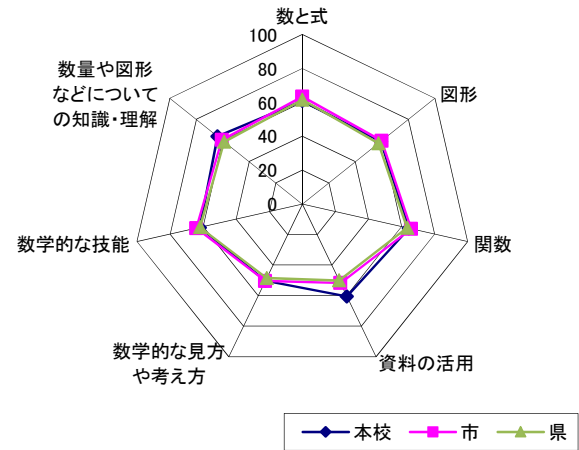
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	平成29年4月18日（火）	今後の指導の重点
地理的分野	市より0.8ポイント、県より0.1ポイント高い。 ○地球儀上に示された地点の経度を読み取ることに 対する正答率が県・市を上回っている。 ○地図を使って正しい方位を知る場合の地図の選 択が、よく理解され、県・市の平均を20ポイント以上 上回っている。 ○オセアニア州の基礎的な知識の習得が良好であ る。 ●基本的な内容についての習得は良好であるが、 上位層と下位層の差が大きい傾向が見られる。	・基本的な内容は良好に習得が見られるため、今後も小テ スト、単元テストなどの短いサイクルで復習を行い、学習 内容の定着に取り組んでいく。 ・地図の見方や資料の読み取り方について、丁寧に指導 する。 ・「複数の資料を用いて特徴を考察すること」は、県や市の 正答率を5～6ポイント上回っているものの、正答率50% を割っている。文章による表現力を育てるために、学習の 振り返りに短文でまとめる活動を位置づけていく。 ・授業の冒頭で、課題意識を持たせ、課題解決的な学習 スタイルを取り入れることを今後とも継続していき、本校の 生徒の良さを育てていく。
歴史的分野	市より2.5ポイント、県より0.1ポイント低い。 ○縄文時代から古墳時代、飛鳥時代～平安時代の 正答率は宇都宮市を2～3ポイント上回っており、学 習内容の定着が進んでいる。 ●鎌倉時代～室町時代に関しては市より8.8ポイン ト、県より6.6ポイント低く、学習の定着が不十分で あることがわかる。 ●「年表に当てはまる時代区分がわかる」設問で は、古代・中世・近世・近代の大まかな区分が理解で きていない。平均正答率が30%台と落ち込んでい る。また、各年代の仏教についての説明を時代ごと に並べる問い正答率が28%と極端に低かった。	・歴史的分野は中世の学習内容に不安が残っている。本 調査を利用した学習の復習を行い、時代区分の認識を高 め、平安時代や鎌倉時代、室町時代の理解を助けていく。 ・地理・歴史各分野を総合してみても、思考力・判断 力、資料活用 of 技能、知識・理解の各観点は総じて、宇都 宮市の平均と同じであるが、知識・理解の観点では、二極 化が進んでいることがわかる。小テスト、単元テストなどの 実施や、ワークを使った繰り返し学習、定期テストの振り 返りなどの徹底を行うことで、底上げを図っていく。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	60.9	63.3	61.5
	図形	59.3	59.8	57.4
	関数	64.5	65.9	63.4
	資料の活用	60.5	51.7	50.1
観点	数学的な見方や考え方	50.2	50.4	48.5
	数学的な技能	62.1	64.1	61.9
	数量や図形などについての知識・理解	64.0	60.6	58.9



★指導の工夫と改善

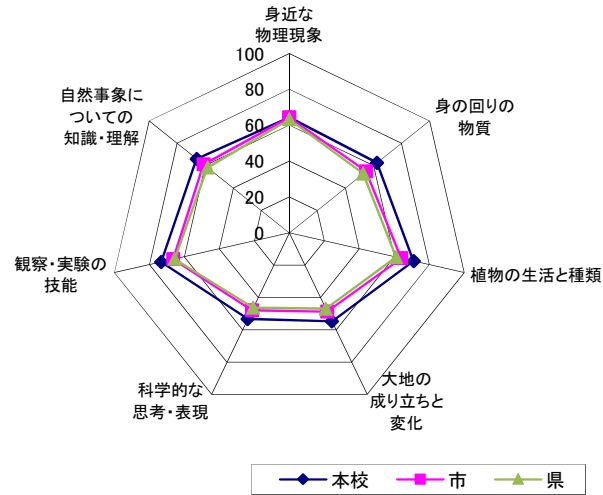
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	この領域は県や市の平均正答率に対して、やや低い。 ○不等式の数量関係の表し方では、正しく理解している生徒が多い。 ●文字式の項をまとめたり、分配法則を使って計算したり、一次方程式を解いたりする技能が未定着の生徒がみられる。 ●活用の問題でも、市の平均を大きく下回っている。	・今後、授業の中でつまづきそうな計算が出てきた場合は、適時計算の仕方を説明するなどして確認していく。また、日常生活の中にある数学的事象を取り上げ、問題を与えて、思考力を高めていく時間を確保するようにする。 ・文章から立式する問題を、小テスト等でも取り入れて、またヒントなどを与えながら、問題演習を行わせていく。
図形	この領域は県や市の平均正答率とほぼ同程度である。 ○三角柱と三角錐の体積関係を正しく述べた分を選ぶことが県平均正答率に対して、9ポイント高い。 ○三角形の2辺が重なるように折る、折り目を作図する問題では、県平均正答率よりも7ポイント高い。 ●この領域でも定着にばらつきがみられる。	・作図用具をきちんと準備させた状況で、いろいろな作図をさせながら、正しい作図方法を身に付かせていく。また、ICTを活用して視覚に訴えながら興味関心を高めたり、理解を深めていく。 必要に応じて既習事項を確認しながら授業を進めていく。
関数	県や市の平均正答率とほぼ同程度である。 ○反比例の表にあてはまる数を答える問題では、県平均正答率よりも5ポイント高い。また、活用の問題は県の平均とほぼ同程度である。 ●比例のグラフから式を求める問題では、県平均正答率よりも6ポイント低い。	・グラフから式を求めたり、式をグラフに表すなどの基礎的事項を定期的に小テストなどを利用し、振り返りをさせ定着を図っていく。 ・「速さ、道のり、時間」の関係でつまづいている場合は、その関係を随時確認しながら、グラフを利用すると容易に解決する場合があることに気付かせたい。また、事象をグラフで表す練習も行っていく。
資料の活用	この領域は、県平均正答率よりも10ポイント高い。 ○度数分布表から度数を求めたり、あてはまる階級を求めることなどの問題の正答率は18ポイント高い。 ●ヒストグラムから記録のよい選手を選び理由を説明する問題では、他の問題と比べて、正答率が低い。	・数学的に表現された事象について、いろいろな読みとり方があることを理解させ、様々な考え方・判断で問題演習を行っていく。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	64.4	64.3	63.2
	身の回りの物質	62.5	54.8	52.8
	植物の生活と種類	71.1	64.0	61.1
	大地の成り立ちと変化	54.8	48.8	47.0
観点	科学的な思考・表現	53.4	48.0	46.4
	観察・実験の技能	73.3	66.4	65.6
	自然事象についての知識・理解	66.1	61.1	58.3



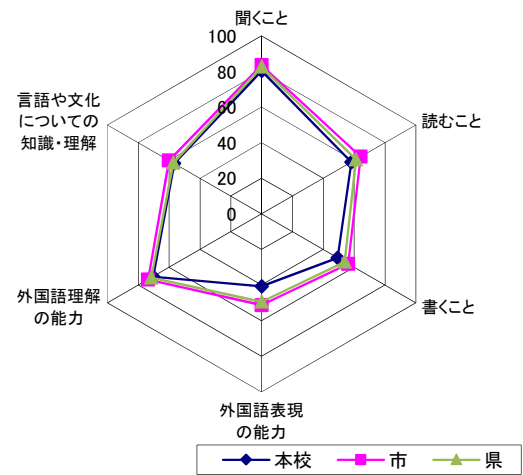
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	この領域の正答率は県、市の正答率とほぼ同じである。 ・光と音に関する内容の正答率は県、市より少し高い。 ●力と圧力に関する内容の正答率が県、市より低い。 ●光の進む道筋の記録や、力の表し方の正答率が特に低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験や観察を行う際の記録を丁寧に取らせる指導を心がけるとともに、レポート作成などを通して科学的な思考力を育成しながら表現力を高めていけるようにする。
身の回りの物質	○この領域の正答率は県より9.7ポイント、市より7.7ポイント高い。 ○水溶液、状態変化に関する内容の正答率は県、市よりおよそ10ポイント高い。 ●物質のすがたに関する内容の正答率は、この領域の他の内容の正答率に比べると低い。	・基本的な知識を身に付け、学習内容は理解はしているようだが、理由を説明したり、結果を推測したり、関係を見出したりすることについては課題が多い。普段の授業中の発問を工夫するとともに、それに対する生徒の発言への指導、助言を通して、思考力や表現力の育成に努めたい。
植物の生活と種類	○この領域の正答率は県より10.0ポイント、市より7.1ポイント高い。 ○植物の体のつくりと働き、植物の仲間に関する内容の正答率は県よりも10ポイント以上、市よりも8ポイント以上高い。 ●適切でないスケッチの修正すべき点を問う設問の正答率が県、市より低い。	・植物の蒸散に関する実験について、その方法をよく理解していなかったり、その結果から気孔の数と蒸散量との関係を見出していく内容がよく理解されていない。実験や観察の中の「なぜ？」をもっとクローズアップした指導を心掛け、実験や観察の結果から何がわかるのかを丁寧に考えさせる指導を心がけたい。
大地の成り立ちと変化	○この領域の正答率は県より7.8ポイント、市より6.0ポイント高い。 ○火山と地震に関する内容の正答率は県より10ポイント、市より7ポイント高い。 ●地層の重なりと過去の様子に関する内容の正答率は、この領域の他の内容の正答率に比べると低い。	・地層の観察では、可能な限り「本物」の観察を取り入れた授業を展開していきたい。 ・地域に存在する生きた教材、例えば大谷石（凝灰岩）などについて詳しく取り上げながら、理科の学習と自分たちの生活とのかかわりをもっと実感できるような授業の展開を心がけていきたい。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	80.4	83.6	82.6
	読むこと	58.2	64.2	61.2
	書くこと	49.3	56.2	53.8
観点	外国語表現の能力	40.7	51.2	49.4
	外国語理解の能力	70.4	73.7	71.5
	言語や文化についての知識・理解	56.8	60.1	57.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、他の領域と比べて高い。 ○イラストと質問文とを照らし合わせて答える問題については、正確に答えられている。 ●5文以上の対話文やスピーチを聞いて答える問題については、やや正答率が下がる。	・教科書の内容に関するQ&Aを、より積極的に扱っていく。 ・Yes / No で答えるものについては、Yes , I do .や No , it's not .など、正確に文で答えられるよう指導していく。 ・ペア学習を用いて、疑問詞の発音と意味を習得させていく。
読むこと	この領域は、県平均正答率よりも低い。 ○ポスターを見て情報を収集し、質問に対する適切な答えの文を選択できている。 ●記事を読んでタイトルをつける問題は6ポイント、手紙を読んで、指示代名詞の内容を選ぶ問題は8ポイント、県の平均よりも低い。	・ポスター作成者や手紙を書いた人の意図を確認したり、本文の内容に対する生徒各自の考えや意見を述べさせたりして、内容をより理解する力を身に付けさせたい。 ・指示代名詞 (it, that, they など) が指す内容を把握させるため、授業ではそれらが本文に出てきたら、その都度内容を確認していく。
書くこと	平均正答率は、他の領域と比べて低い。 ○与えられた単語を正しい語順に並べ替え、一般動詞を用いた文を作ることができている。 ●イラストと空所がある対話文を見て、空所に当てはまる英文を1文書く問題は15ポイント、自分の学校の先生について紹介する英文を書く問題は10ポイント、県の平均よりも低い。	・be動詞と一般動詞の用法を継続的に指導し定着を図る。新しい文法や構文が出てくるときに、既習の文法の確認も行う。 ・自分の考えや意見を述べやすいテーマを選択し、英文を書かせる時間を設ける。書くことに自信が持てない生徒が多いため、モデルになる文を提示したり、T2の教員が助言したりして、生徒が書くことに前向きになれるような方策を工夫していく。

宇都宮市立城山中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家の人はあなたがほめてもらいたいことをほめてくれると感じている生徒の割合が高い。また、学校の先生も学習のことについてほめてくれると感じている生徒の割合が高い。
 ○学習について、疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたいと考えている生徒が多い。また、できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている生徒も多い。
 ○誰に対しても思いやりの心をもって接している生徒が多い。
 ○学校の宿題は、自分のためになっていると感じている生徒が多い。
 ●学校の宿題は、やりたくなる内容であると感じている生徒の割合が低い。
 ●毎日朝食を食べている生徒の割合が県や市の割合を下回っている。
 ●友達の前で自分の考えや意見を発表することは苦手な生徒が多い。
 ●自分の行動や発言に自信を持っていると絶えた生徒の割合は県や市の割合を下回っている。
 ●家庭学習について、宿題はやるが、予習や復習している生徒の割合は県や市の割合を大きく下回っている。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業における学習課題の提示	授業の初めに、本時の学習の課題を示し、見通しを立てて学習に取り組めるようにしている。	「授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されている」の質問に肯定的に回答した割合が、昨年度と比べて約3ポイント増加している。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「宿題プラスワン」を地域学校園での合い言葉とし、自主的な家庭学習への取組を習慣化させるようにする。	「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」に肯定的に回答した生徒の割合は46%であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
家庭で宿題の他に自分で考えた勉強をしている生徒の割合が46%と低く、市の平均より13ポイントも低かった。	家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	地域学校園での合い言葉として取り組んでいることであり、小学校と連携して各家庭での理解を促し、自ら学ぶ姿勢を育てていく。